

山城地域振興計画（最終案）に対する主な意見

第4回新山城地域振興計画策定懇話会

日時：令和元年8月19日（月）14：15～15：30

場所：京都府山城広域振興局 宇治総合庁舎 大会議室

出席委員：大西座長、北川委員、白須委員、高山委員、藤野委員、松中委員、森下委員、森本委員

計画に対する修正意見

全般について

- ・全体的に、特に政策に関わるものについて英語・仏語などカタカナ表記が多く、一般的にあまり知られていない用語も多く使われているので、日本語表記にしてほしい。

（事務局）

- ・用語集の作成を検討したい。

ア 防災・減災対策の強化

現状分析・課題（12頁）

- ・リダンダンシーという単語が一般的ではないため補足が必要である。

ウ 人権の尊重

現状分析・課題（17頁）

- ・「人権三法」については、わかりやすくするために、三法を全て記載すべき。

■男女共同参画の推進（19頁）

- ・ワーク・ライフ・バランスについては、「仕事と生活の調和」といった日本語表現にした方が一般の方にはわかりやすい。

■宇治茶の生産振興・消費拡大の推進（24頁）

- ・抹茶・煎茶・玉露については全て山城地域で生まれたものである。抹茶、煎茶、玉露は全て京都府南部地域で生まれ発展・継続したものであることを強調した表現にしてほしい。

（事務局）

- ・今後検討したい。

ウ お茶の京都DMOを核にした周遊・滞在型やましろ観光の新展開

現状分析・課題（27頁）

- ・「モノからコトへ（消費から体験へ）」について、体験も消費支出に含まれるものであるため、書き方を工夫すべき。

4 エリア構想（30頁）

- ・エリア構想「Ma a Sレベル4を実現」は、実際の政策やロードマップがなく、また全国的に実現がなされていないこともあり、短期間においては現実的ではないと考える。

5 数値目標

- ・荒茶生産額について、他産地が減少傾向の中、山城地域ではこれまで増加してきたが、今後さらに増やしていくというのは現実的には難しい。

（事務局）

- ・数値目標については、関係者のモチベーションを上げるような挑戦的な目標設定にしたいと思うが、今後検討したい。

計画に関する要望

全般について

- ・数値目標と具体的施策については、進捗管理や原因分析が今後重要。
そのためには、各市町村の取組をサポートすることや本庁・振興局が連携することが重要であるため、しっかりと取り組んでほしい。

（1）新名神の全線開通を見据え、それぞれのエリア特性に応じた地域づくりの推進

ウ 相楽東部の未来づくりの推進（8頁）

- ・相楽東部では人口減少を踏まえて担い手確保が重要。今後、地域振興計画を受けて市町村がどのような取組をしていくかということが重要である。

（事務局）

- ・今後、地方創生第2期の取組が進められることとなり、人口減少・地域間格差の拡大等の問題には府・市町村の連携が不可欠。地域振興計画においても市町村との連携を基本指針として盛り込んでいる。

- ・担い手不足についても、地域振興・産業など様々な観点から担い手を増やすよう取り組みたい。
- ・観光については、府として観光総合戦略を策定したところ。山城地域振興計画ではそれに基づいて目標を設定している。山城地域の特産品・観光資源を活かし、目標達成に向けて取り組みたい。

(3) 子育てや長寿の安心を確保し、人権が尊重され、誰もがいきいきと暮らせる共生社会の実現

ア 安心して子育てできる環境づくり

■子育て環境日本一の実現に向けた取組

- ・待機児童解消のため、数値目標として待機児童ゼロを掲げているが、保育の質を下げずに、施設整備等による待機児童解消に取り組んでほしい。
- ・人口減少、幼児保育の無償化等により、子育ての担い手不足が進行しているため、その確保が課題である。

イ 宇治茶・京やましろ新鮮野菜の生産振興・消費拡大による魅力ある農林業の確立

- ・農業について、災害等がある中で、農業を魅力あるものにするためには、数値目標の設定だけでなく、目標の達成に向けた担い手・後継者の育成が重要である。